

# 奄美群島復帰年表 日本復帰六十周年記念

## 1945 昭和 20

- 4・20 名瀬大空襲（4月20日）
- 8・6 焼夷弾が後に発火した火災で市街地の90%焼失
- 8・9 広島に原爆投下
- 8・9 長崎に原爆投下
- 8・15 天皇、「終戦」の詔書放送
- 9・22 米軍、武装解除のため徳之島に上陸
- 12・20 太平洋米軍総司令部、選挙文書発送を北緯30度以北までと発表。奄美大島、選挙から除外

## 1946 昭和 21

- 2・2 奄美諸島、本土から行政分離、「2・2宣言」
- 2・28 奄美諸島、「臨時北部南西諸島」となる
- 3・13 大島支庁内に米軍政府設置、奄美諸島、米海軍の軍政下に置かれる
- 4 本土との航海、全面禁止
- 6 奄美大島連合青年団結成
- 7 名瀬町、市制を施行
- 10 大島支庁を臨時北部南西諸島政庁と改称し、支庁長を知事とする
- 11・1 「南海日日新聞」創刊

## 1947 昭和 22

- 4・10 奄美共産党を結成
- 5・17 司法庁設置、司法権独立
- 6 名瀬で劇団「熱風座」結成
- 7 名瀬市官公庁職員組合結成
- 8 市町村長会、日本復帰嘆願を決議、軍政長官に口頭で伝える
- 8 大島中学校講堂で民主化要求市民大会
- 10 名瀬で劇団「演技座」結成
- 10・11 集会・言論・出版の自由等を規制
- 11・1 東京で奄美青年同盟結成
- 11・1 名瀬で奄美復興博覧会

## 1951 昭和 26



米軍政下時代の紙幣「B円」

## 1952 昭和 27



民族分離反対を訴える決起大会



奄美群島が一枚岩となって闘った復帰運動

- 5 復帰署名完了、14歳以上の住民の99・8%。奄美連合教職員組合、軍政府に日本復帰を陳情
- 7・13 名瀬市議会信託統治反対決議、名瀬小校庭で信託統治反対市民総決起大会
- 7・18 大高講堂で信託統治反対全郡青年大会
- 8・1 復協の泉芳朗議長、名瀬市の高千穂神社で復帰祈願の断食（ハンスト）
- 8・5 全郡民、集団ハンスト
- 8・5 復帰陳情団、密航して渡日
- 8・9 名瀬で日本復帰郡民総決起大会
- 12・5 トカラ7島の日本返還決まる
- 2・14 復協結成1周年大会。講和条約第3条撤廃要求
- 2・29 琉球政府設立の布告
- 3・27 奄美群島政府解庁式
- 4・1 琉球政府発足
- 4 日本政府連絡事務所、名瀬に設置へ
- 4・28 名瀬小で祖国独立記念郡民大会
- 4・29 日米講和条約発効、郡民大会を開き弔旗を掲げる
- 5・8 日の丸掲揚は非政治的、非公開の場で許可
- 5・10 喜界の集団密航、60人が桜島沖で捕まる
- 5・28 名瀬市の人口3万3931人、7年間で2.5倍
- 6 東京で完全日本復帰を求める奄美連合全国総決起大会
- 6 工ル大学・小野正行囑託員の奄美の動物調査結果報告。
- 6 クロウサギ、トゲネズミなど
- 6 本土渡航緩和される
- 7 名瀬で復帰郡民総決起大会、第3条撤廃決議
- 7 日本政府南方連絡事務所設置に伴い、奄美大島母国政府連絡会（会長・大津鉄治）結成。臨時措置として実質復帰の運動へ
- 7 奄美大島商工会議所発足
- 7 名瀬漁協設立
- 7・30 9市町村首長選挙、名瀬市長に泉芳朗当選
- 9・22 琉球政府奄美地方庁を設置。庁長に沖野友栄就任
- 9・28 復帰は徳之島以北との情報
- 9・29 復協が鹿児島県大島郡の完全復帰・3条撤廃要求の要求声明

1951

昭和 26

3・20 3022 群島議会、復帰要請決議  
2・14 奄美大島日本復帰協議会（復協）を結成、議長に泉芳朗。復帰署名運  
動始まる  
2・22 全郡教職員大会が日本復帰を決議

10・29 奄美群島議会発足  
10・28 全官公庁職員組合全郡大会  
10・25 奄美群島政府設置  
10・22 奄美群島知事・議員選、知事に中江実孝当選  
10・1 民間貿易許可  
9・15 戦後初めて大島軸の原料糸入荷  
8・15 社会民主党結成  
8・1 市町村に公民館を設置  
7・1 染織指導所、業務開始  
3・27 名瀬、小宿、古仁屋で共産党員ら約20人検挙される  
1・11 軍政府、食糧3倍値上げ実施（1月11日）



悲願の日本復帰を果たし、名瀬の「おがみ山」にひるがえる日の丸

1950

昭和 25

5・2 軍政府、食糧3倍値上げを指示  
食糧3倍値上げで市町村長と経済復興委員会代表、軍政府官  
に陳情  
5・17 奄美大島連合教育会、奄美大島連合教職員組合となる  
12・25 昇曙夢「大奄美史」刊

1953

昭和 28



復帰のはちまき

1948

昭和 23

11・11 名瀬で第1回奄美体育大会  
伊集田実、創作劇「犬田布騒動記」書下す  
月刊誌「自由」創刊（1945）  
4・1 教育の「6:3:3」制実施、国民学校を小学校と改称  
奄美大島連合教育会、奄美大島教職員組合として発足  
5・17 深佐源三、森田忠光の2教師、教育関係図書購入のため  
本土へ密航  
6 軍政府、大島無尽会社大島支店を接收、大島中央銀行、  
琉球銀行大島支店となる  
9 北部南西諸島全官公庁職員組合発足  
この年、新民謡「本茶峠」発表

12・25 復協全郡代議員会、政党性排除決定  
12・24 「新生丸」沖永良部近海で沈没、死者3人、行方不明77人  
12・21 復帰促進週間2日目、名瀬市で16回目の郡民大会  
12・21 本土の全国奄美連合、奄美大島復帰全国対策委員会を一本化、奄美  
大島復帰期成会を結成  
12・16 ダレス米國務長官、奄美大島返還を声明。「沖縄・小笠原については  
これまで通り」  
12・15 名瀬市でダレス声明感謝郡民大会  
12・14 米大使館、「復帰は大島郡全体」と言明  
12・13 鹿児島県の大島復興対策本部発足（9月10日）  
12・11 母国調査団来島。歓迎郡民大会で日の丸掲揚許可  
12・11 在沖縄奄美人、正式移住者だけで3万7500人  
12・11 奄美1本土の無線電話、9年ぶりに開通  
12・11 神戸で奄美復興全国青年協議会結成大会  
12・11 衆院、奄美の復帰暫定法案を可決（11月3日）  
12・11 「12月1日復帰貫徹」で郡民大会  
12・11 奄美小児童、「12・1復帰貫徹」で12時間断食  
12・11 奄美返還日米交渉始まる（11月25日）  
12・6 復協促進断食祈願大会  
12・6 通貨交換船、日本円9億円を積んで名瀬港入港  
12・6 復帰の影響調査で学術団来島  
12・6 午後6時56分、奄美群島返還の日米協定に調印  
12・5 奄美群島日本復帰。名瀬で返還式、県大島支庁開庁  
12・5 鹿児島県立大島病院設置

11・11 与論で島民総決起大会  
11・11 与論の学童、自発的断食  
11・11 沖永良部・与論の2島分離返還反対決起大会。児童も断食参加  
11・11 日本政府南方連絡事務所名瀬出張所開設  
11・11 民族分離（2島分離）抗議奄美大会開催  
11・15 16 知名町で復帰祈願断食  
11・15 重成格鹿児島知事、実質復帰方策など調査に来島  
11・15 鹿児島県議会、復帰促進決議  
11・15 和泊・知名町民合同断食祈願  
11・15 復協の泉議長、東京・三田の完全復帰国民大会「大島はもぎとられ  
た片腕。胴体も痛いと言ってもらいたい」と訴える